

形を判ずるも、其險要の度亦大差なきを認む

百二秦關西扼東 崢嶸函關至今雄

當年老子騎牛路 殘夜聞鷄過此中

次て土倉河(トツアン)十里堡、普通營(フイトシヤン)塔子營(ターツァン)楊家灣(ヤンチャワン)を経て閩卿縣(ミンウチンシエン)に投ず。行

程略々前日と同じ。今日經過せし一般の地勢は古函關より土倉河に到る約三里の間は土地高隆して昇降坂道を成し、凹道は總て前日に同じく、塔子營に及んで漸次下降す、其の最低の地は即ち閩卿にて、附近は開濶且つ波狀地なり。閩卿は人家約三百戸、主に綿花を産す。氣候は温和にして、降雪期は十一月末より翌年の三月に亘り、雨は五十の二箇月に多しと。宗教は耶蘇回々共に約一百人、高等小學堂(學生)現在二、巡警局(巡警)現在二十人、郵政局を設く。

三十一日、閩卿の西門を出で、西南方に向ふ。凹道幅約二米突路面平かならざるに加ふるに、雨後の泥濘脛を沒し容易に進む能はず。幸に路側に由るを得て高柏(パイ)に到る。蓋し北京出發以來、始めて降雨に會せり。路側は自然の傾斜地なると同時に土質多少の砂を含み、通過頗る容易なりき。